

関係機関・団体・課・室長 様

兵庫県農政環境部長

平成 29 年度 兵庫県農業気象技術情報第 5 号 (9 月情報) について (送付)

このことについて、下記のとおり情報を作成しましたのでお送りします。

記

1 気象経過・予報から想定される栽培上の留意点と対応策

作物	地域	栽培上の留意点	対 応 策
水稲	全 県 共 通	<p>1 生育状況</p> <p>県北部の極早生品種コシヒカリの出穂期は平年よりかなり早く、草丈は短く、茎数はかなり多い。成熟期は早まると考えられる。</p> <p>県南部の出穂期は極早生品種のキヌヒカ리는平年並、中生品種のヒノヒカリも平年並、晩生品種の山田錦は平年より早い。草丈はキヌヒカリは短く、ヒノヒカリで平年並、山田錦でやや長い。茎数はキヌヒカリで平年より少なく、ヒノヒカリはやや多く、山田錦で少ない。成熟期はやや早まると考えられる。</p> <p>2 病害虫</p> <p>(1) 穂いもちは平年並と予想される。向こう 1 か月の気温は高く、降水量は平年並～多いと予想されており、葉いもちが目立ったほ場、多肥により葉色の濃いほ場、山間部の日照の少ないほ場などでは発生がやや多くなると予想される。</p> <p>(2) 紋枯病は現在平年並の発生である。しかし、気象条件により、急激に病勢進展する可能性があり、普通期においては注意が必要である。向こう 1 か月の気温は高く、降水量は平年並～多いと予想されており、ほ場によっては多発する場合もあると思われる。</p>	<p>1 生育状況</p> <p>落水まではできるだけ飽水管理に努める。水が少ない場合は走り水でも良い。ほ場の乾燥状況に注意して、収穫作業に支障のない限り、落水時期は刈取 7 日前を目安とする。</p> <p>適期収穫を行う。刈取時期の目安は、稔実もみの 85% (山田錦は 90%) が黄化したときである。特に極早生品種は胴割れ防止のため、玄米水分の低下に留意し、刈り遅れに注意する。黄化もみ率は正常穂で判定すること。</p> <p>乾燥作業前は必ず水分チェックを行い、急激な乾燥は避ける。外気温が高いときに乾燥設定温度が低いと、乾燥時間が長引いて、品質が低下することがあるので注意する。</p> <p>2 病害虫</p> <p>(1) ほ場及び周辺ほ場をよく見回り、発生状況を確認する。すでに葉いもち病斑がある場合は、箱施用剤の効果は切れているので、穂へ感染する可能性があり、注意が必要である。防除は、薬剤の種類と散布時期に注意する。</p> <p>(2) ほ場をよく見回り、適宜農薬散布を行う。また、多発ほ場では早めに秋すきを行い、越冬菌核の減少を図る。</p>

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
水稲 続き	全県 共通	<p>(3) トビイロウンカは、7月下旬～8月上旬の場内ほ場及び一部の現地ほ場では発生を認めており（現地発生ほ場率3.5%）、今後の発生状況に注意が必要である。</p> <p>(4) 斑点米カメムシ類は、現在、平年並の発生である。予察灯およびフェロモントラップへの誘殺も増加が見られ始めている。向こう1か月の気温は高いと予想されており、本虫の発生は平年並みと予想される。</p>	<p>(3) 収穫期が10月以降になる作型（ヒノヒカリ・山田錦等）や無防除ほ場においては、坪枯れが生じる可能性が高い。8月下旬～9月上旬における本虫の密度が要防除水準（成・幼虫5頭/株）を超える場合は速やかに防除を実施する。</p> <p>(4) 斑点米カメムシ類は、穂揃期に防除を徹底して行う。ヒエの穂やホタルイの小穂が発生源となるので、特にヒエやホタルイの発生ほ場は防除を行う。</p>
大豆	全県 共通	<p>1 生育状況 開花期は平年並で、生育は順調である。</p> <p>2 病害虫 (1) 立枯性病害の発生は、場内ほ場では認められていないが、一部の現地ほ場で認められている（14.2%、21ほ場、7月下旬～8月上旬調査）。今後の気象条件は高温で推移すると予想され、茎疫病等が発生しやすいと考えられ、やや多い発生で推移すると考えられる。</p> <p>(2) 吸実性カメムシ類は、場内ほ場では発生を認めていないが、現地ほ場で少数ながら発生が認められている。今後の気象条件は気温が高く推移すると予想されており、カメムシ類の発生は平年並と予想される。</p>	<p>1 生育状況 土壌が乾燥する場合は、走り水等により土壌水分を一定に保ち、莢伸長や子実肥大が順調に進むよう努める。一方、降雨による滞水がないように、ほ場の排水を良くする。</p> <p>2 病害虫 (1) ほ場の排水対策を行い、発病しにくい環境を作る。</p> <p>(2) カメムシ類の防除は着莢初期～子実肥大期である。</p>
キャベツ	全県 共通	<p>1 栽培管理 (1) 近年、ゲリラ豪雨の発生が多く、冠水や降雨に伴う作業の遅れが懸念される。</p> <p>(2) 定植後、降雨がない場合は、灌水不足による活着不良が懸念される。</p>	<p>1 栽培管理 (1) 排水溝の点検を常に行い、排水対策を徹底する。特に台風や大雨の前には溝をさらえておく。冠水時は早期の排水に努める。</p> <p>(2) 定植後は、灌水チューブ等で充分灌水し、活着と初期生育を促進させる。乾燥時の中耕は浅めに行う。</p>

作物	地域	栽培上の留意点	対応策										
キャベツ	全県共通	<p>2 病害虫</p> <p>(1) ハイマダラノメイガは、加西市におけるクレオメ（誘致植物）の調査では発生量が多い。今後の気象は高温が予想され、増殖には好適であるため、今後栽培される野菜類（アブラナ科）では、多い発生状況で推移すると考えられる。</p> <p>(2) ハスモンヨトウの発生は加西市、南あわじ市におけるフェロモントラップ調査では6月以降の誘引量はやや多い。今後の気象条件は高温が予想され、増殖には好適であるため、今後栽培される野菜類では、やや多い発生状況で推移すると考えられる。</p> <p>(3) シロイチモジヨトウは、加西市におけるフェロモントラップの誘殺数が平年より多い傾向が続いている。淡路島のネギほ場では6月頃から幼虫が発生しており、現在多発ほ場も見られている。今後も気温は高く推移すると予想されており、本種の増殖に好適な状態が続くことから、秋作の野菜・花き類における被害が懸念される。</p>	<p>2 病害虫</p> <p>(1) キャベツなどアブラナ科野菜の育苗期および定植直後の加害は被害が大きいので、不織布や寒冷紗などによりハイマダラノメイガの飛来を避ける。 病害虫発生予察注意報第1号を参照のこと。 (http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/29tyuuihou1.pdf)</p> <p>(2) ほ場をよく観察し、若齢幼虫の集団を葉上で見つけたら、直ちに捕殺する。薬剤は病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)を参考に、適切に散布する。</p> <p>(3) 病害虫発生予察防除情報第1号を参照のこと。 (http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/29boujyo1.pdf)</p>										
果樹	全県共通	<p>1 生育</p> <p>(1) 適度な土壌水分を維持する。</p> <p>(2) 果実の成熟は、樹種や品種、園地等によってバラツキがあるので、適期収穫に努める。</p> <p>樹種別の生育状況（8月下旬時点）</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>クリ</td> <td>生育はほぼ平年並で、早生の成熟も平年並（昨年比約1週間遅い）。着実量はやや多く、果実肥大はやや劣る。円形褐斑病の発生が目立つ。</td> </tr> <tr> <td>ブドウ</td> <td>成熟期は、平年比でやや早い傾向であるが、園、品種によっては高温傾向のため着色や減酸が遅れている場合がある。</td> </tr> <tr> <td>ナシ（青ナシ）</td> <td>昨年より熟期は1週間程度遅い。</td> </tr> <tr> <td>イチジク</td> <td>果実の収穫開始は平年並である。降雨がやや多く、果実はやや大玉で糖度はやや低い傾向である。腐敗果の発生がややみられる。</td> </tr> <tr> <td>温州ミカン</td> <td>果実の生育は平年並で、果実の糖の増加と減酸も平年並である。</td> </tr> </tbody> </table>	クリ	生育はほぼ平年並で、早生の成熟も平年並（昨年比約1週間遅い）。着実量はやや多く、果実肥大はやや劣る。円形褐斑病の発生が目立つ。	ブドウ	成熟期は、平年比でやや早い傾向であるが、園、品種によっては高温傾向のため着色や減酸が遅れている場合がある。	ナシ（青ナシ）	昨年より熟期は1週間程度遅い。	イチジク	果実の収穫開始は平年並である。降雨がやや多く、果実はやや大玉で糖度はやや低い傾向である。腐敗果の発生がややみられる。	温州ミカン	果実の生育は平年並で、果実の糖の増加と減酸も平年並である。	<p>1 生育</p> <p>(1) 高温、乾燥が続く場合は、灌水、敷きわらなど乾燥防止対策を行う。過度の灌水は避ける。</p> <p>(2) 食味およびカラーチャートや糖度計等を活用し、果皮色、糖度、酸含量、果実の硬さ等から収穫適期を判断する。</p> <p>調査地点：クリ、ブドウ、イチジクは加西市、ナシは但馬地域、温州ミカンは南あわじ市</p>
クリ	生育はほぼ平年並で、早生の成熟も平年並（昨年比約1週間遅い）。着実量はやや多く、果実肥大はやや劣る。円形褐斑病の発生が目立つ。												
ブドウ	成熟期は、平年比でやや早い傾向であるが、園、品種によっては高温傾向のため着色や減酸が遅れている場合がある。												
ナシ（青ナシ）	昨年より熟期は1週間程度遅い。												
イチジク	果実の収穫開始は平年並である。降雨がやや多く、果実はやや大玉で糖度はやや低い傾向である。腐敗果の発生がややみられる。												
温州ミカン	果実の生育は平年並で、果実の糖の増加と減酸も平年並である。												

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
果樹 樹 続 き	全 県 共 通	<p>2 台風対策 台風の接近に対する備えを行う。</p> <p>3 病害虫 (1) 今後の降雨により、イチジクの腐敗果等病害の発生が懸念される。</p> <p>(2) カメムシ類は平年並（県北部でやや多）と予想される。 ナシ等ではハダニ類の発生が多い。</p>	<p>2 台風対策 枝折れ防止のため、枝の結束や支柱を強化する。防風ネットの補強に努め、葉ずれ等による傷果の発生を減らす。 収穫可能な果実はできる限り収穫しておく（農薬使用基準に留意）。 雨水が速やかに園外に流れるよう、排水溝、排水口の点検をする。</p> <p>3 病害虫 (1) 病害の発生に注意し、適切な防除に努める。イチジクでは、腐敗果を早めに処分し、病菌を媒介するショウジョウバエ類の発生を防ぐ。</p> <p>(2) 発生動向に注意し、適切な防除に努める。</p>

◎水稲・大豆の栽培については「稲・麦・大豆作等指導指針」を、防除については「病害虫発生予察情報」及び「病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」を参考にすること。
※本情報は、8月30日時点のデータを元に作成しています。

2 気象予報

(1) 近畿地方の向こう1か月予報（8月26日～9月25日）

[平成29年8月24日 大阪管区气象台発表]

【概要】

近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。近畿太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

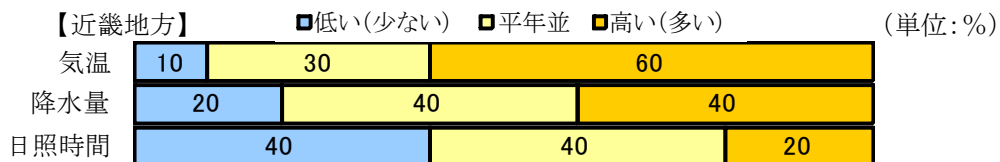
向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率60%です。2週目は、平年並の確率50%です。

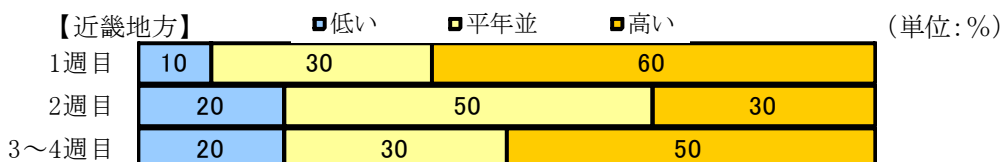
3～4週目は、高い確率50%です。

【確率】

○気温、降水量及び日照時間



○各週の気温経過



(2) 近畿地方の向こう3か月予報（9月～11月）

[平成29年8月25日 大阪管区気象台発表]

【概要】

この期間の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。

9月：天気は数日の周期で変わるでしょう。気温は、高い確率50%です。

10月：天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。

11月：近畿日本海側では、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。近畿太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。

【確率】

○気温 【近畿地方】 □低い □平年並 □高い (単位:%)

3か月	20	30	50
9月	20	30	50
10月	20	40	40
11月	30	30	40

○降水量 【近畿日本海側】 □少ない □平年並 □多い (単位:%)

3か月	40	40	20
9月	30	40	30
10月	40	40	20
11月	40	40	20

【近畿太平洋側】 □少ない □平年並 □多い (単位:%)

3か月	40	40	20
9月	30	40	30
10月	40	40	20
11月	40	40	20

※気温・降水量・日照時間は低い・平年並・高い(少ない・平年並・多い)の3階級で予報されます。階級の幅は、平年値の作成期間(1981～2010年)における各階級の出現率が33%となるように決めてあります。

ホームページアドレス

- ・「病害虫発生予察情報」
<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>
- ・「病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)」
<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>
- ・「Web 水稲生育予測システム」
<http://www.aginfo.jp/RGP/>
- ・「携帯用水稲生育予測」
<http://www.finds.jp/ricediag/kt/index.php>
- ・「稲・麦・大豆作等指導指針」
http://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000107.html

問い合わせ先

本情報に関すること

- ・兵庫県農政環境部農林水産局農産園芸課 TEL (078)341-7711(代表)
農産班:主作・機械担当 内線 4065
農産班:野菜担当 内線 4054
花き果樹班 内線 4066

技術内容に関すること

- ・県立農林水産技術総合センター
企画調整・経営支援部 TEL (0790)47-2435
農業技術センター 農産園芸部 TEL (0790)47-2410
農業技術センター 病害虫部 TEL (0790)47-1222
北部農業技術センター 農業・加工流通部 TEL (079)674-1230
淡路農業技術センター 農業部 TEL (0799)42-4880

兵庫県ホームページでも本情報を公開しています。

URL : http://web.pref.hyogo.lg.jp/af11/af11_000000097.html
(兵庫県トップページ>食・農林水産>農業>農作物>農業気象技術情報)